

川井真由先生は神奈川県から推薦を受けて、令和5年4月からJICA(国際協力機構)の青年海外協力隊の一員として、ザンビア共和国に派遣されています。

まゆ先生のザンビアうるるんにつき 15



“Mwyenda bwino” (ムイエンダ プイーノ、あなたの行く先が良くなりますように (「行ってらっしゃい」の意味で使われる言葉。ちなみに、「行ってきます」や「さよなら」は Nayenda. (ナイエンダ))

園児から教わったニャンジャ語を、待ちゆくザンビアの大人に話している川井です。(大人として正しく使えているかは不明。)

番外編をあと2つ書く予定なのですが、今回は、現在ザンビアを賑わせているニュースについてお話しします。

雨季と電気

日本に四季があるように、ザンビアには3つの季節があります。雨季の12~4月、涼しい乾季の5~8月、そして、9~11月が暑い乾季です。

ザンビアに着いた7月、朝晩は気温10度ほど、昼間は20度台前半で、暑さに苦しめられた11月は朝晩がだいたい25度ぐらい、昼間は30度台後半でした。

そして今、ザンビアは雨季真ただ中のはずなのですが…この2ヶ月、天気予報はほぼ晴れマーク、連日30度超えの暑さです。



稀に見る雨の少なさのようで、ザンビアでは現在水不足が問題になっています。干ばつによるトウモロコシの不作は、主食シマの材料ミルミル(トウモロコシの粉)の価格に影響します。水が不足すると断水になります。

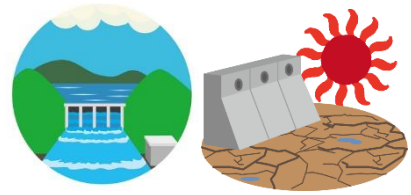
そして何より、現在私が一番困っているのが「電気」です。

ここで問題です！日本の電気は主に何発電でしょうか？原子力？太陽光？火力？風力？

・・・答えは、火力。発電電力量の約70%を頼っており、次いで再生可能エネルギー、水力、原子力と続きます。(データは、電気事業連合会HPの2021年度データより引用)

では、ザンビアはどうでしょうか？今回の話の流れで、もうわかりますかね。

ザンビアでは、主に国営電力会社のZESCOが電力を供給しているのですが、電力の大部分を3つの水力発電所に頼っています。それゆえ、この国では「雨が降らない」ことは、「電力が足りなくなる」ことに繋がります。



とりわけ、電力不足で困るのが家です。ザンビアの家は、オール電化になっています。コンロは電気コンロで、お湯は電気でお湯沸かす器(GEYSERS)というシステムを使っています。電気が止まると灯りだけでなく、料理もできず、お湯も使えません。「オール電化」は、響きは良いですが、電力が不安定な国では融通が利きません。



水不足の影響を受けて、ついに3/11より計画停電が始まりました。(13年前が思い起こされます。)毎日8時間電気が止まります。

時間帯は地域によって異なりますが、私が住んでいる地域では、深夜0時～朝8時の間、電気が使えません。夜の間は「寝てしまえば・・・」と割り切れます。しかし、朝6時に起きて、7時過ぎに出て行く生活で、冷蔵庫が止まり、コンロもお湯も使えず、もちろん電子レンジも使えず・・・停電の終わりが見えない中、まだ三日しか経験していませんが、結構応えています。

では、学校はどうでしょうか。そちらは、まったく問題ありません。なぜなら、私のいるコミュニティ・スクールは、そもそも電気が通っていないのです。

調べてみると、ザンビアでは人口の約25%しか電気が使えないようです。農村部では5%未満の人しか電気にアクセスできずにいます。(ザンビアのエネルギー規制委員会HPより引用)

そう考えると、電気が使えないなんて、贅沢な悩みなのかもしれませんね。前回紹介したマラウイなどでは、停電に加えて断水も頻発しています。

アフリカに来て8ヶ月になりますが、アフリカンライフに染まるには、まだまだ時間が必要なようです。



(2024.3.14 川井 真由)